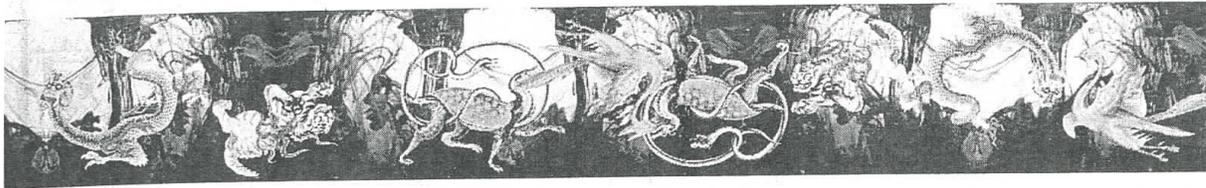


アジアの未来表現

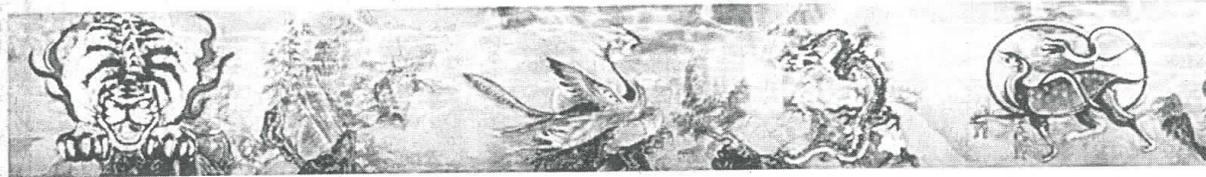
韓国の博覧会に映像作品

京大・土佐教授



韓国南部・麗水市ヨルスで5月に開幕する国際博覧会で、メディアアーティストの土佐尚子さん(50)が、京都大情報環境機構教授が、会場に設けた世界最大級のLEDスクリーンに上映する映像作品「アジアン・セイント(アジアの守り神)」を発表した。長さ230分、幅23メートルの画面狭しと巨大な竜が泳ぎ、古来からアジアに伝わる多くの神々が争うなどダイナミックな作品。土佐さんは「争いを超越し、共に未来を築いていくアジアをイメージした」と話している。

会場と最寄り駅を結ぶメインストリートの天井に設置した「エクスポデジタルギャラリー」で上映される3分



間の作品。方角をつかさどる白虎や青龍など「四神」が戦う場面から始まり、巨大な竜が画面いっぱい体をくねらせると、甲骨文字から般若心経の漢字へと移り変わり、最後に宇宙をバックに十二神将が画面を埋め尽くす。

四神は北朝鮮の高句麗古墳群、十二神将は奈良の東大寺や新薬師寺をそれぞれ参考に、手書きの絵を元にコンピュータグラフィックス(CG)化した。5月12日～8月12日の期間中、15分おきに映し出される。

【五十嵐和大】

.....

写真はいずれも「アジアン・セイント」の一場面。土佐尚子京大教授・EXPO 2012 YEOSU KOREA提供

